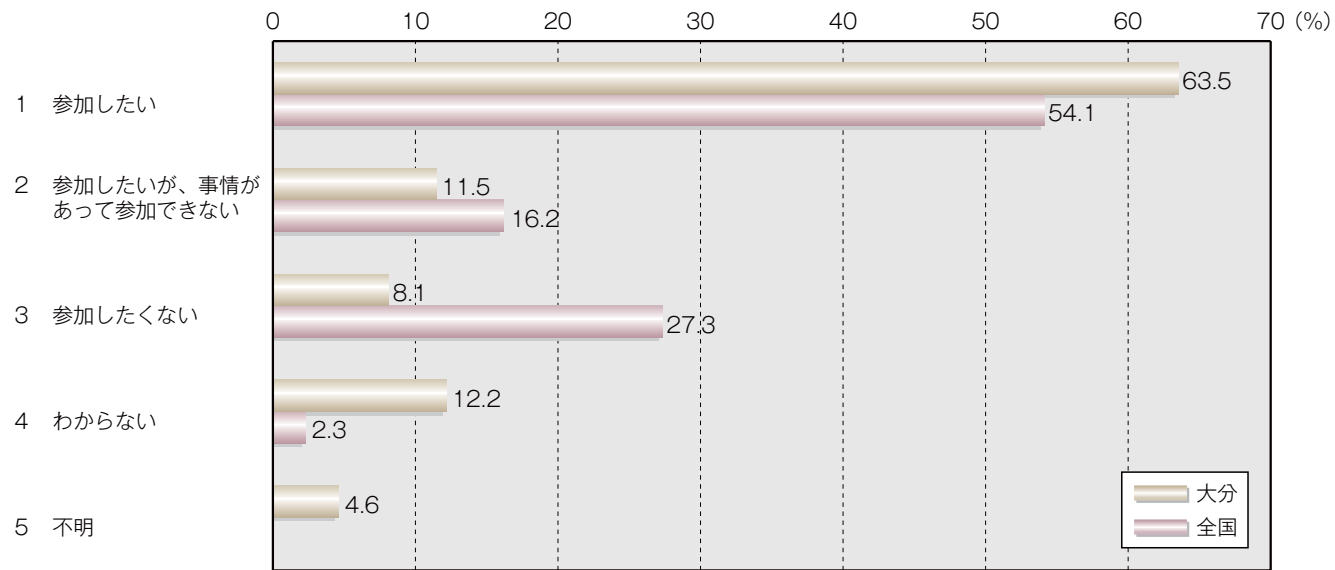


# (1) 高齢者の生きがいづくりの推進

## 現状と課題

- 長寿化が進む中で、高齢者が豊かな知識や経験を生かし、生きがいをもって社会参画し、地域社会の担い手となることが求められています。
- スポーツや文化、ボランティアなどさまざまな社会活動に対する高齢者の参加意欲が高まる中、活動の場や社会貢献の機会づくりが求められています。
- 「団塊の世代」が高齢期を迎える中、これら元気な高齢者が「生涯現役」として生き生きと活躍できる就業支援が必要です。

今後の地域活動への参加意向



平成23年度「高齢者の社会参加等に関する意識調査」(福祉保健部高齢者福祉課調べ)

## これからの基本方向

- 地域の担い手となる人材を育成し、子育てや健康づくり、伝統・文化など幅広い分野における高齢者の社会活動を促進します。
- 高齢期を豊かに過ごすため、スポーツ・文化・知識・教養などを学ぶ機会の充実を図ります。
- 高齢者が個々のライフスタイルに応じて働くことのできる仕組みづくりを国、市町村、関係機関などと連携をして進めます。

## 主な取り組み

### 1 高齢者の豊かな知識・経験を生かした地域活動の促進

- 介護予防やサロン<sup>※</sup>、子育ての見守り活動、ボランティアなどの地域活動の促進
- 豊かな知識や経験などを生かした地域活動を担う高齢者の掘り起こし、活動支援
- 高齢者と子どもたちとの交流の場づくりを推進するなど、高齢者の豊かな知識・経験を発揮できる機会の提供

#### 策定委員会から一言

高齢者の生きがいづくりには、若いころから文化やスポーツ、地域活動などに参加できるような仕組みづくりが大切です。



### 2 スポーツ・文化・学習機会の確保

- 豊の国ねんりんピック<sup>※</sup>を開催し、高齢者の生きがいと健康づくりを促進
- いきいき実践大学<sup>※</sup>など高齢期を豊かに過ごすためにふさわしい知識や教養などを学ぶ高齢者の文化・学習の場の提供

### 3 老人クラブ活動の活性化

- 加入率向上に向けた普及啓発やクラブの活性化につながる魅力ある活動を支援
- 「団塊の世代」の加入促進と後継リーダーの育成を支援

### 4 高齢者の就業環境の整備

- 高齢者の多様な就業ニーズに応えるため、シルバー人材センターの事業支援などの高齢者の就業環境の整備
- 高年齢者雇用安定法に基づく「定年引上げ」や「継続雇用制度の導入」などの高年齢者雇用確保措置の着実な推進



高齢者の地域活動「おはじきの遊び方を通じた地域の子どもの交流」



豊の国ねんりんピック「三世代交流健康マラソン」

## 目標指標

指標名	単位	基準値	年	H22年度		H27年度
				目標値	実績値(見込)	目標値
60歳以上のボランティアコーディネーター <sup>※</sup> 率(県ボランティア・市民活動センター)	%	33	H22	—	33	50
豊の国ねんりんピック(スポーツ・文化)参加者数	人	5,353	H22	—	5,353	5,800
老人クラブ加入率全国順位	位	19	H21	—	18	15

## (2) 高齢者が安心して暮らせる地域づくり

### 現状と課題

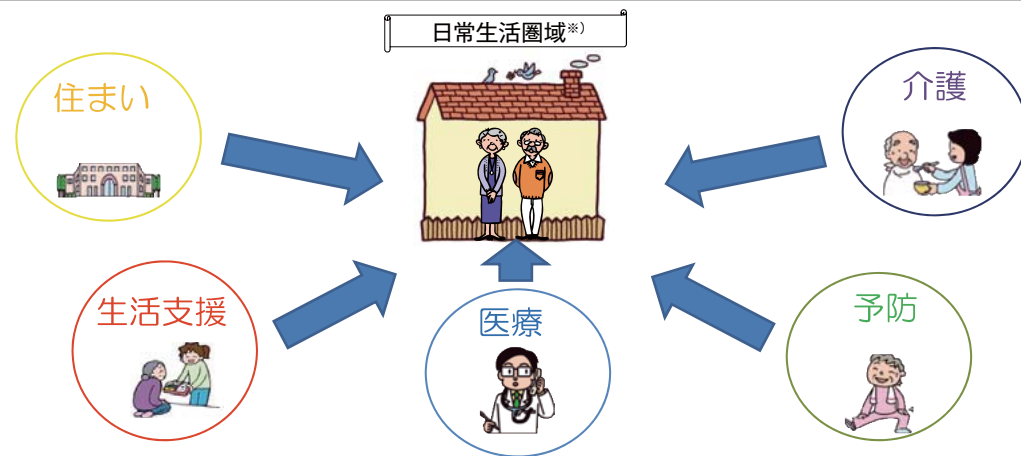
- 少子高齢化や過疎化、核家族化の進行などにより、一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯が増加する中、家庭や地域の支え合い機能が低下するとともに、住民相互の社会的なつながりも希薄化しています。
- 介護保険制度の施行以後、制度利用については広く県民に定着し、この10年間のサービス受給者数は約2倍に伸びており、今後、さらに増加することが見込まれています。
- 認知症の人や重度の要介護者など、日常生活の支援が必要な人が増加しており、こうした高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を送るための介護サービス提供体制や生活支援サービスの充実、さらに地震などによる大規模災害などに備えた対応が求められています。

### これからの基本方向

- 高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスの切れ目ないサービス提供体制の整備を進め、地域包括ケアシステムの構築を推進します。
- 介護が必要な高齢者の需要に的確に対応できるよう、在宅サービスの充実や介護保険施設の整備など介護サービス提供体制の整備を進めます。
- 認知症の方は、今後、高齢化のさらなる進展により、急速に増加することが見込まれることから、認知症の方と家族が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう認知症対策を推進します。

#### 地域包括ケアシステムについて

「地域包括ケア」とは、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう①医療、②介護、③予防、④住まい、⑤生活支援の5つのサービスを一体化して提供していく考え方



### 主な取り組み

#### 1 地域全体で支える在宅生活への支援

- 緊急連絡先やかかりつけ医などの本人情報を入れた「冷蔵庫保管型救急ボタン」の配備など、一人暮らし高齢者等の見守り体制の強化
- 高齢者のニーズに応じた配食サービスや買い物支援など、多様な生活支援サービスの確保と権利擁護の普及啓発
- 一人暮らし高齢者や重度の要介護者などにも対応できる医療・介護の連携強化のための仕組みづくりの推進
- 介護予防と健康づくり活動の推進、普及啓発
- 高齢者の住まいの整備促進

#### 策定委員会から一言

団塊の世代が65歳、75歳を迎える2015年、2025年を視野に入れた取り組みが必要です。



冷蔵庫保管型救急ボタン

#### 2 介護サービス基盤の充実

- 訪問介護や通所介護、短期入所生活介護など在宅介護サービス基盤及び地域密着型サービスの充実
- 特別養護老人ホームや老人保健施設など施設介護サービス基盤の充実
- 保健や医療を含む総合的・包括的な相談・支援とケアマネジメント体制の整備
- 質の高い福祉・介護人材の養成、現場における従事者の確保・定着の推進



在宅介護支援「24時間ケアコール」

#### 3 認知症高齢者対策の推進

- 認知症に関する正しい理解の普及啓発
- 認知症高齢者とその家族が安心して暮らすことができる地域ネットワークの充実
- 認知症疾患医療センターを中心に、認知症に関する医療・介護分野の連携の強化

### 目標指標

指標名	単位	基準値	年	H22年度		H27年度
				目標値	実績値(見込)	目標値
小規模多機能型居宅介護事業所 <sup>※)</sup> の設置されている日常生活圏域数	か所	28	H22	—	28	50
認知症サポーター <sup>※)</sup> 数	人	23,087	H22	—	23,087	40,000

注) 介護サービスの目標指標については、介護保険制度の改正を踏まえ、平成23年度末に策定する「豊の国ゴールドプラン21<sup>※)</sup>(第5期)」において定めます。